
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 144 号

-環境・農業・食べ物など情報の交流誌-

2004.10.14 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_index.htm

*****発行部数 1494 部*****

□ 目 次 □-----

<今週の提言>森林と水質保全 田渕俊雄

<読者の声>山下さんから ; 笛木さんから

<79歳の意見>高齢者が元気になる「青春の思い出」 原田 勉

<山崎農業研究所情報>

◇現地研究会 (第 113 回定例研究会) 速報 (2004.9.25-26)

——現地に学ぶ「森林とのつき合い方」

◇会員新刊案内

——杉山恵一・中川昭一郎編『農村自然環境の保全・復元』(朝倉書店)

<日本たまご事情>

世界たまご屋会議 IEC (International Egg Commission)—その 1—

愛鶏園・齋藤富士雄

<編集後記・同人の近況報告> 9 月 30 日~10 月 13 日

<今週の提言>森林と水質保全

森林は緑のダムと言われる。これは森林がダムと同じように大量の水を貯える能力を有することから言われる。しかし森林は水をただ貯えているのではなく、きれいな水に浄化しているので浄水場付きのダムである。現在雨には色々な物質が含まれている。それをろ過したり吸収して浄化する能力を森林は持っている。

このように森林はきれいな水を我々に供給してくれる貴重な水源地であるが、それがともすると忘れられている。日本の森林面積率は世界でも有数の 67%もあるので、山地を水源とする河川の水は一般的に清浄である。しかし森林面積が少ない地域では河川の水は必ずしも清浄ではない。特に湖沼は汚れやすい性

質があるので、その流域の森林面積の大小が湖沼の水質に大きな影響を与える。森林面積率の大きい琵琶湖や野尻湖では水質が良く、森林面積率が少ない手賀沼や霞ヶ浦の水質は悪い。

日本全体では森林流出水は生活排水量の10倍以上ある。現在の生活排水の処理レベルでも、森林流出水が生活排水を希釈してきれいにしてくれる。しかし霞ヶ浦流域のような森林面積率が20%しかない所ではそうはいかない。かなり高度の処理をしないと希釈しきれない。現在の法律で定められている排水基準は環境基準の10倍程度は高く設定されている。これは処理水が自然の水によってかなり希釈されることを期待していることを示すが、それは森林面積率が高い地域に通用することである。

都道府県の中には森林面積率が30%台とかなり小さいところがある。大阪、茨城、千葉、埼玉、東京、神奈川の6都道府県である。茨城以外は人口密度も高いので、その都府県の森林流出水量は生活排水量と大差ない。神奈川、埼玉、千葉は辛うじて森林流出水量の方が生活排水量よりも大きい。東京と大阪は生活排水量の方がむしろ大きい。これでは相当高度の処理をしなければ流出先の河川の濃度は低くならない。海に放流していることが河川の汚濁を弱めているとみられる。また東京や大阪では大量の水道水源を他県に依存しており、希釈どころか水道水源の森林も自分のところにはないのである。それぞれの地域の森林を水質保全の立場からもっと評価し、保全するべきだと思う。

田淵 俊雄
元東京大学教授・山崎農業研究所顧問
y.noken@taiyo-c.co.jp

<読者の声>

●10/04 山下さんから

143号
<http://macky.nifty.com/cgi-bin/bndisp.cgi?M-ID=1283&FN=20040930040001>
の「一日だけ生きる」に徹した水上勉先生の記事読みました。
すごいですね。70才のとき心筋梗塞で心臓1/3しか残ってないのにパソコ

ンを始められて、さらに79才のとき眼底出血にもなられたという。

それでも85才まで小説や書き物をしてこられたのには驚きました。

「一日だけ生きればよい」という考えで、今日まで積み重ねてこられたことに感動しました。

私も医療にかかわる者として、この精神を患者さんにも伝えていきたいですね。(談)

山下鍼灸院

<http://nazuna.com/tom/yamashita-ac/>

◎原田勉からのコメント：

自分でも長くない命を自覚して、「一日暮らし」の思想に到達されたことは、誰にでもできることでは無いでしょうが偉いですね。見習いたいですね。

*143号の<79歳の意見>「一日だけに生きる」に徹した水上勉先生記事参考リンク中、以下のインターネットアドレスがありませんでした。改めてご紹介します。

◎かんげつびょう ー水上勉さんの世界ー

(水上勉ファンの uni (うに) さんのホームページ)

http://homepage1.nifty.com/kangetsu_byou/

#横浜での追悼映画祭の紹介があります。

●10/12 笛木 昭さんから：遊休化農地を新しい担い手に繋ぐために

担い手が高齢化し農家や農業集落とともに消えつつあるなかで遊休農地は増える一方です。現場の関係者は、新しい企業的農業経営や集団営農組織等への農地集積など、新しい農業の再生・発展に一生懸命取り組んでいますが、全体の崩壊に対しては点的な対応ではとうてい間に合いません。

つまり、農地改革以来の、いや徳川期以来の農民経営が高度経済成長以来の経済発展により根底から解体・空洞化しているのです。これは、欧米でも見られた農業システムの歴史的な大転換ですが、本来新しい農業体制の編成は長い年月を要する上に、わが国の場合は農産物貿易自由化で押さえ込まれています。

しかし大多数の消費者国民が認めるように、このまま日本農業が旧態化した自作農とともに消えてよいはずはありません。そこで、日本農業の新しい再生発展に備えて、解体自作農がもたらす遊休化農地を公的に確保し、長い年月をかけて生成される新しい担い手に繋ぐための、農地の公的管理体制の確立が強く望まれるのです。

笛木 昭

山崎農業研究所会員・鯉渕学園教授

<79歳の意見>高齢者が元気になる「青春の思い出」

秋分の日、近藤康男先生（105歳）を訪問して、今更のように新しい発見をした。

今年の夏は特に暑かったので、高齢の先生は食欲が落ち、肺に水が溜まったが、彼岸の頃は涼しくなって、いずれも解消した。

ご本人が「この分では、転んで骨折しなければ、命の綱は切れないだろう」と言われたので、安心してよもやま話をした。

韓国のテレビ局からインタビューの申し込みがありましたと話したら、80年前の大正14年に、初めて朝鮮農村の調査旅行をした話になって、1時間45分にわたって元気に話された。私は勿論、息子さんも初めての「先生の青春物語」であった。

「大正14年の朝鮮農村」は、下記の参考図書に詳しいが、強調したいのは、この時に朝鮮の女学校に勤めていた婚約者の証言を得たことである。

婚約者とは、後の大正15年12月に結婚されたナナエ夫人のことである。

近藤先生が東大農学部の学生時代からお付き合いのあった人であり、先生より一足先に女子大を卒業して朝鮮・海州の女学校の教師として赴任されていた。

日韓併合から15年、日本政府がとった同化政策で日本語の強制が行われていた時代である。婚約者が嘆いていたことは、

「朝鮮語を話すとき校長先生に叱られます。美しいチョゴリが着たいのに禁止されています」ということであった。当時の状況を総括していた。

朝鮮農村の治安、小作争議、農家経済・農民の生活などの報告は下記図書に

ゆずる。

そして、話が長くなったのは、先生の学生時代から結婚までの4・5年間のお二人の青春時代の詳しい思い出であった。これは個人情報としてプライバシーにかかわるので割愛するが、語られる先生の顔色は次第に明るくなり、楽しそうで、ますますお元気になられた。

帰りは、門の外までお見送り頂き恐縮した。

普通は、高齢になると、眼も耳も不自由になり、言いたいことも意見発表の機会がなくなる。何かあっても、老人の繰り返言としか受け取られない。

介護する人も大変であるが、誰か聞いてくれる人がいれば、「わが青春の思い出」を語ることは楽しい。老人の生き甲斐になり、家族にとっても大いに助かると思う。いずれ、わが身も高齢になる。その時どうしたらよいか。いまから考えておきたいことである。

参考図書『朝鮮経済の史的断章』1987年 農文協刊 2000円＋税
<http://nazuna.com/~tom/4-540-87010-6/>
<http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=87-12600>

山崎農業研究所会員・『電子耕』編集同人

原田 勉

<http://nazuna.com/tom/>

<山崎農業研究所情報>

◇現地研究会（第113回定例研究会）速報（2004.9.25-26）

——現地に学ぶ「森林との付き合い方」

場所：群馬県鬼石町 桜山公園「桜山きづきの森」17名参加

第1日 現地見学「桜山きづきの森」見学および講演

第2日 鬼石町の森林を鋸谷さんの説明で歩く

講演要旨（第1日目）

（2）鋸谷式間伐の実践等について 児玉町森林組合 浅見和夫氏

現在、森林80haを埼玉県と群馬県にまたがって所有している。いま5代目である。森林は65%が針葉樹で残りが広葉樹林である。戦後に大規模な植林事業

があったが、人手が足りず、十分な間伐ができなかった。森林の管理については経験がなく、維持管理ははじめは手が掛かるが、その後はあまりかからないと思ひ込み林地管理を引き継いだ。

引き継いだ当時は仕事に人を使えない状態なので、すべて自分でやった。チェーンソーや重機（ブルやユンボ）を扱った。バブル時代までこのような仕事してきた。しかし間伐は遅れ、高樹齢林となってしまった。このような状態では木は健全に成長しない。切ってみると年輪が同心でなくボタン状に波をうっている。これをボタン材というが、これは寄生虫によるもので管理が悪いためである。市場価値がない。樹齢の若いうちの間伐が必要であることが分かった。

林地の維持管理ができない場合、しかたなくゴルフ場や遊び場として業者に売ってしまう人も出た。これには抵抗を感じたが、林業では生活できないため、やむをえないのである。売らずにすむ人はよいと言われた。そのまま放置したのでは森林全体が悪い影響を受けるので、休眠状態の森林組合を活性化して森林を守る必要を感じた。組合を立て直すために、森林公社の下請けから始めた。目標は組合員全体が良くなることであるから、利用間伐に力を入れた。しかし人手がかかり容易でない。

そこで間伐期を過ぎた密生林の再生には経済性と育林に優れた鋸谷式の導入を考えた。これを町や県に説明した。埼玉県では従来型間伐費は高い。このため鋸谷式導入が緊急間伐事業として認められた。そのおかげで、森林の維持管理ができるようになった。行政は治山事業として森林土木に大金をつぎ込んできた。治山事業にダムやコンクリート構造物で固めるよりも森林保全として間伐の大切さを認識してもらった。作業道が出来れば次は間伐である。治山は間伐から始まると言える。鋸谷式間伐育林法の実践は育林のみならず自然環境保全にもよい結果をもたらしている。

（文責：安富）

◇会員新刊案内

——杉山恵一・中川昭一郎編『農村自然環境の保全・復元』

山崎農業研究所会員の中川昭一郎氏（東京農業大学客員教授）らが編者となった『農村自然環境の保全・復元』が、朝倉書店から刊行されました。目次と執筆陣は以下のとおりです。（*：山崎農業研究所会員）

第1章 農村環境の現状と特質

1.1 農業・農村の変貌（小泉浩郎*） 1.2 農業・農村のもつ多面的機能

(佐藤晃一) 1.3 農村と都市の共生と対流 (原 剛)

第2章 農村自然環境復元の新たな動向

2.1 農村における自然環境劣化の要因と復元の方向 (中川昭一郎*)

2.2 農業農村整備における環境重視の施策展開 (多田浩光) 2.3 生物多
様性国家戦略における里山重視 (掘上 勝) 2.4 農村自然環境の保全・復
元に関する研究の進展 (日鷹一雅・金子忠一・奥島修二)

第3章 農村自然環境の現状と復元の理論

3.1 農村の自然復元 (杉山恵一) 3.2 環境保全型農業と農村 (熊澤喜久
雄*) 3.3 農村の生物相とその保全 (下田路子・日鷹一雅・清水哲也・坂
井隆彦)

第4章 農村自然環境復元の実例

4.1 水辺生態系の復元 (小笠俊樹) 4.2 里山生態系の復元 (久保田繁男)

4.3 棚田の保全運動 (千賀裕太郎*) 4.4 放任竹林の拡大から里山を守
る (山田辰美) 4.5 農地整備と生態系復元 (森 淳)

終章 農村自然環境復元の将来展望 (杉山恵一・中川昭一郎)

B5判2段組、196頁、定価5,460円(本体5,200円)

<日本たまご事情>

世界たまご屋会議 IEC (International Egg Commission)—その1—

9月後半、オーストラリア Sydney のホテルに世界中から「たまご屋さん」
関係者がカミさん連れで集まった、参加者は36ヶ国、300名を超えた。

この会議はイギリス人が組織し、アメリカが強力に支援している。事務所は
ロンドンにある。IECは鶏卵関係で世界的にネットワークをもった組織として
は唯一のものであろう。日本も国としてそのメンバーとなっていたが、予算の
関係で会費を削られ、今ではメンバーとなっていない。残念なことある。

この組織は自由度が高く、年会費と年一回開催される大会の費用を払えば個
人として誰でも参加できる。私も過去三回ほどオーストラリア、カナダ、南アフ

リカの大会に参加してきた。その後病気などして休んでいたが、有難いことに今年に参加することができた。

会議は同じホテルを中心に五日間続けて行われるが、その間いろいろなプログラムが組まれている。カミさん向けのそれも特別用意されている。

この大会の目玉は世界中の鶏卵関係者の交流である、言葉の問題はお互いにあるが、同じ仕事で苦勞していることで妙な連帯感が生まれる。世界中の養鶏家同士ゴツイ手で握手する時、それは言葉の壁を越えるものがある。

会議初日、会場へ入っていくと懐かしい顔が見える。「やあ、お前、生きておったのか！？」。こうして会議は始まった。

齋藤 富士雄

(株) 愛鶏園

<http://www.ikn.co.jp>

<編集後記・同人の近況報告> (9月30日~10月13日)

台風22号が関東地方を直撃した。関東地方に上陸した台風としては、過去最強であったという。今回の台風はとくに風が強く、伊豆半島では屋根がふきとばされた家もあった。農作物にも大きな被害が出ている。台風通過後もなかなか天気は回復しない。稲刈りは途中、年内収穫の葉ものの播きつけもままらなぬ、と知り合いの農家から聞いた。災害に遭われた方々に、心からお見舞い申し上げます。(山崎農業研究所会員・田口 均)

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名(見出し)を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末にURLを。
- 5、JIS X0208 規格外の文字(機種依存文字)のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

◎投稿アドレス変更のお知らせ

電子耕への投稿アドレスは、発行人の変更に伴い、

y.noken@taiyo-c.co.jp

となっております。投稿される方はこちらのアドレスをお願いします。

次回 145号の締め切りは10月25日、発行は10月28日の予定です。

最後まで読んで頂き有り難うございました。今後もよろしくお願い致します。

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

書名：岩波アクティブ新書 45 『メールマガジンの楽しみ方』

著者：原田 勉 定価：735円 発行日：2002年10月4日

発行所：岩波書店 ISBN4-00-700045-X

まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら

<http://nazuna.com/tom/book.html>

『電子耕』から大切なお知らせ

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag.html

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第144号

バックナンバー・購読申し込み／解除案内

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag2.html

2004.10.14 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:y.noken@taiyo-c.co.jp>

***** ここまで『電子耕』 *****

